

一九八三年十二月二十五日
発行



第 66 卷 第 1 号

史学・地理学・考古学

論 説

- 荀子の国家論……………渡 辺 信 一 郎 (1)
1921年ロシア共産党粛清……………尼 川 創 二 (33)
国の昇格と国府の変容……………米 倉 二 郎 (70)
双頭龍文鏡 (位至三公鏡) の系譜……………西 村 俊 範 (95)

研究ノート

- アボリショニストの改革姿勢……………清 水 忠 重 (116)

書 評

- 井上浩一著『ビザンツ帝国』……………山 邊 規 子 (132)

紹 介

- 梶村秀樹著『朝鮮史の枠組と思想』 (康 玲子)

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

いずれも確かな墓の位置すら解っていない。中国では多くの遺跡が発見されているにも拘らず、魏の墓はかなり報告されているにも拘らず、魏の墓というものは、魏の正始八年の銘のある鉄帷帳架を出した、洛陽市の磚墓（考古通訊一九五八の7）以外には、全く、知られていない。遺跡が発見だからといって、魏という王朝の存在を否定することはできない。魏代の鏡というものも、現存の資料には、あまり多くない。まだ未発見なのである。したがって、三角縁神獸鏡が中国から未発見であるから中国鏡でないといえない。

仿製鏡論の要点の一つに、「銅出徐州、師出洛陽」の銘がある。徐州附近からは銅は産出しないから、これは虚辞であり、中国人の作文ではないといっているのである。しかし、徐州という地名は、都市名であると同時に州名でもあった。同じ鏡銘に揚州というのが州名である事実と一致する。徐州という州は山東の南部から、揚子江の下流の北岸近くまでを含む。その揚子江附近までくれば、丹陽の銅官山をはじめ、各地から銅が産出されている。「銅出徐州」は決して虚辞ではない。

最近、われわれは考古科学の開発をめざしているが、その一つとして、鉛の同位体比による、青銅製品の産地の同定を、山崎一雄、馬淵久夫氏らの化学者に依頼して進めている。馬淵氏の分析によると、三角縁神獸鏡は、他の日本古墳出土鏡と共に、舶載鏡も仿製鏡もほとんど後漢鏡と同じ地域の銅を使っているという。そして、呉の赤烏元年の年号鏡は華南地方の銅を使っているのに対し、魏の正始元年鏡は華北の銅を使っているということが判明した。この事實は、魏の正始元年銘の三角縁神獸鏡は呉の工人によって作られたという可能性を弱めるものである。

慶北史学（慶北大学文理科大学史学科）
三
岡山市立オリエント美術館研究紀要 一
日本史論文集（天津社会科学学院日本問題研究所）
世界歴史 一九八一—三、四
文化語学習（朝鮮社会科学学院） 一九八一—三、四
歴史科学（朝鮮社会科学学院） 一九八一—三、四
神道学（出雲大社神道学会） 一一一
産業社会論集（立命館大学） 二九
金日成著作集 六、七、八
三康文化研究所報 一六
立正西洋史（立正大学西洋史研究会） 四
田村誠一著 卑弥呼の墓だった箸墓 第11話
東京大学史料編纂所報 一五
古代史の研究（関西大学古代史研究会）
三
同朋大学論叢（同朋大学） 四四・四五合併号
八幡大学論集（八幡大学法経学会） 三二
一、二
化粧文化（ポーラ文化研究所） 五

受購図書

（一九八一年一〇月二六日—一九八二年二月九日）
社会科学（朝鮮社会科学学院） 一九八一—三、四、五
鹿兒島経大論集 二二—三

（一九八一年一〇月二六日—一九八二年二月九日）
社会科学（朝鮮社会科学学院） 一九八一—三、四、五
鹿兒島経大論集 二二—三

岐阜史学(岐阜大学教育学部岐阜史学会)

七三、七四

専修史学(専修大学歴史学会) 九

佐伯有清編 邪馬台国基本論文集(創元社)

韓国史研究叢報(韓国国史編纂委員会)

三四

栗原優著 ナチズム体制の成立(ミネルヴ

ア書房)

宝塚市史(同市史編集室) 八

人文論叢(福岡大学研究所) 一三—三

経済経営論集(龍谷大学経済経営学会)

二二—一、二、三

西洋史論叢(早稲田大学史学会西洋史部会)

三

一橋研究(一橋大学大学院一橋研究編集委

員会) 六一—三

法文学部論集(愛媛大学法文学部) 一四

神道史研究(八坂神社神道史学会) 二九

—四

史学科報告(鹿児島大学教養部) 三〇

海事研究(日本海事史学会) 三七

朝鮮学術通報(在日本朝鮮人科学者協会)

一七一、二

東洋文庫年報 五五年度

川添昭二著 中世文芸の地方史(平凡社)

日本思想史研究(東北大学文学部日本思想
史研究会) 一三

文学部論叢(立正大学文学部) 七一

福岡大学研究所報 五六、五七

桐朋学報(桐朋高等学校) 三一

日留山人著 河を忘れた古代史

文明(東海大学文明研究所) 三三

民族研究(北京民族研究所) 六

東京学芸大学紀要 三三

The Imperial Image (Smithsonian In-

stitution, Free Gallery of Art)

史朋(史朋同人) 一八

学芸紀要(徳島大学教育学部) 三〇

人文研究(神戸女子薬科大学) 九

経済研究(一橋大学経済研究所) 三三—

一

民族学研究(日本民族学会) 四六—三

アジア研究所紀要(亜細亜大学アジア研究

所) 八

経済論究(九州大学大学院経済学会) 五

二

駿台史学(明治大学駿台史学会) 五四

編集後記

暖冬のまま新年を迎えましたが、会員諸
兄にはいかがおすごしでしょうか。発行が
大変遅れてしまいました。第六六巻一
号をお届け致します。本号は当初原稿の集ま
りが悪く、臨時の編集会議を経てようやく
予定の頁数に達しました。時間のかかった
分だけ内容の方もヴァライエティに富み、
充実しておりますので、十分に御検討下さ
い。尚、編集委員一同、史林の順調な定期
刊行に努力しておりますが、会員諸兄のよ
り一層の御協力をお願い申し上げます。本
年も突り多い、良き歳となりますように。
(井)

史 林 (第六六巻第一号)

一九八二年二月五日印刷 定価九〇〇円
一九八三年一月一日発行

発行人 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部

理事 岸 俊 男
振替京都七一一五五番

印刷所

京都市下京区七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. LXVI No. 1 Jan. 1983

CONTENTS

Article :

- La théorie de *Xunzi* 荀子 sur l'EtatS. Watanabe (1)
Чистка РКП(б) 1921 годаС. Амакава (33)
On the Enlargement of *Kokufu* 国府
Plan According to the Raising
of Provincial StatusJ. Yonekura (70)
A Genealogy of the Bronze Mirror
Sôtôryûmon-Kyô 双頭龍文鏡 or
Ishisankô-Kyô 位至三公鏡T. Nishimura (95)

Note :

- The Reform Attitude of the
Garrisonian AbolitionistsT. Shimizu (116)

Book Review :

- K. Inoue, *The Byzantine Empire*N. Yamabe (132)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386—9369